別　紙

【主な展示資料】

1　描かれた名古屋の本屋（『尾張名所図会』）

『尾張名所図会』は、天保 14（1843）年に前編が名古屋の本屋から刊行された、尾張の名勝・寺社・風俗などを紹介した地誌です。本文には、貞享４（1687）年に俳人の松尾芭蕉が名古屋の本屋の「風月堂孫助」を訪ねた時のエピソードが記載されています。この絵はその挿絵で、左端の芭蕉とともに本屋の店先が描かれています。当館では、明治時代の再販本を所蔵しています。

2　『御江戸往来泰平楽』（蔦屋重三郎・鶴屋喜右衛門版）

江戸時代の教育機関である寺子屋などで、子どもの読み書きなどの習得に使われた教科書を「往来物」といいます。『御江戸往来泰平楽』もその一つで、天明５（1785）年に江戸に店を構えていた蔦屋重三郎と鶴屋喜右衛門が共同で出版したものです。この本は、現在の新城市域にあった村の庄屋に残されていたもので、江戸から離れた地域にもこうした書物が広く流通していたことが窺えます。

３　書物貸借の記録（名古屋市吉田家文書）

書物の需要は高まりましたが、庶民にとって書物は高価なものであったため、知人同士で蔵書を貸し借りすることもありました。上の写真は、知人との書物の貸借を記録した帳面です。「東海道名所図会（とうかいどうめいしょずえ）」や「太閤記（たいこうき）」などが記されており、娯楽性の高い本が借りられていたことがわかります。また、「貸本屋（かしほんや）」という業者から本を借りることにより、購入よりも安価に書物を手にすることができました。

４　三田家（さんだけ）の書物類と書物箱

「三田家（さんだけ）」は、東海道筋の東阿野村（現在の豊明市）で医者を営んでいた家で、医学関係の書物が多く残されていました。書物箱は、書物を保管するために作られたもので、当館には、書物箱に入った三田家の書物類等を収蔵しています。